

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 5月 10日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	AUA Youth Innovation Worksho@	派遣先大学:	清華大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

清華大学は中国・北京市にある総合大学で、2017年に創立106周年を迎えました。習近平・現中国国家主席もこの大学の出身です。また理工系に強いことで知られています。

参加した動機

アジアの同世代の人々と、経済発展の影響や各地の伝統文化の伝承の現状について話してみたかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

申請書類・パスポート写し・Curriculum Vitae・IELTSの成績表などをオンラインまたは直接本郷の国際交流課に持ち込んで申請しました。締切には余裕を持って準備を進めると良いと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

1週間のみ滞在なので不要でした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

マスクを用意して行きました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学に加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
指導教員の先生に事前に出席できないことを伝えました。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
特に準備はしませんでした。IELTSは前年秋に取った8.0、また中国語は1年間TLPの授業で学んでいました。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
マスク。他のものもコンビニなどで揃います。(中国語しか通じないこともありましたが) WiFiは持っていったほうが良いかもしれません。もしくは現地でsimカードを買うか。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
5つのチームに分かれて、課題発見(フィールドワーク)→解決法を考える→発表、という流れでした。私は「Culture Protection」というチームだったので、フィールドワークでは中国の伝統工芸(切り絵細工、染め物)の伝承が行われている場所を訪れました。最終発表に向けてはパワーポイントと解決策をイラスト化したボードを用意しました。それらの準備は主に清華大学構内で行われましたが、パワーポイントの作成などを夜にホテルで終わらせてしまって、余った時間で観光などもできました。
②学習・研究面でのアドバイス
本プログラムはワークショップ形式だったため授業はほとんどありませんでしたが、他国からの参加者と議論しながらお互いの国が抱えている問題を理解し、最終発表に繋げていく過程では、それらの国(例えばミャンマー、スリランカ)のことを余り知らなかったため話がまとまらずに苦労することもありました。
③語学面での苦労・アドバイス等
基本的には英語を用いて会話や説明がなされるのでその点は苦労しませんでした。ただし、フィールドワークの時などは現地の人には中国語しか話せないときもあり、説明が中国語のみになることがありました。またグループのメンバーもマレーシア人、タイ人、韓国人(!)などがずっと中国語で会話していたり、インドネシア人も交えて韓国の歌(ドラマの主題歌らしい)をずっと歌っていたりしたので、諦めてこちらも中国語で話すしかありませんでした。こういうこともあるので、現地の言葉もある程度分かるようになっていたほうが良いかと思います。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学が手配したホテルに宿泊しました。宿泊費は全て大学が負担しています。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

北京に滞在していた1週間は曇一つないような日もあるなど天気に恵まれ、風が強い日が多かったためか空気も比較的きれいでした。滞在した時期は日本より湿度が低く少し過ごしやすかったです。
移動は大学の手配したバス、もしくは地下鉄。
食事は大学構内の学食、もしくは外のレストラン。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は大丈夫そうでした。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

合計で2万円ほど(保険代、学食以外のレストランでの食事代、地下鉄代、故宮などの入場料、土産物代)
その他は全て清華大学が負担。

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

観光で故宮や頤和園などに行ったり、北京中心部で夕飯を食べたりしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

清華大学の学生、卒業生が運営チームとして全行程で助けてくれました。観光なども一緒に行くことができました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

敷地がとても広く、食堂だけで20個ほど有るようです。また、多くの場所でwifiが使えます。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

アジア各地の学生と知り合いになり、彼らと自国の文化から国際関係、そして他愛もない話と何でも言えるような関係になれました。また英語は久しぶりに、中国語はほぼ初めて、実践で使うことができたのも良い機会だったと感じています。
また今回は日程中にAsian University Allianceという大学連合の結成式も行われ、中国国務院副首相や東大を初め加盟大学のトップが参加するなど大規模なイベントでした。

②参加後の予定

またこのような短期プログラムに応募してみようかと考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

アジア各地の学生たちと知り合え、一緒に観光したり夜話したりできる良い機会だと思います。費用の自己負担はほぼ0なのでとてもお得です。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年5月4日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	AUA Youth Innovation Workshop	派遣先大学:	清華大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:IT業界)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

派遣先の清華大学は、北京大学と並んで中国トップクラスの大学として有名です。両者の違いとしては、清華大学は理工系・社会科学系の学部のみであるのに対して、北京大学は全ての分野が揃った総合大学であることが挙げられます。

参加した動機

- ・プログラムのテーマであったDesign Thinkingに興味があった
- ・清華大学を始めとして、AUAの参加大学に理工系の大学が多かったため、理系の友達を沢山作れると思った
- ・東大での第2外国語が中国語だったので中国に興味があったことが主な動機です。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

申請書類は余裕を持って提出しましょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

15日以内の滞在であったため、ビザは必要ありませんでした(ビザが必要かどうかに関しては渡航前に必ず最新の情報を大使館のHPなどで確認して下さい)。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に用意はしていませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大を通じて、公益財団法人日本国際教育支援協会(JEES)の学研災付 帯海外留学保険「付帯海学」に加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

海外渡航届を教務課に提出しました。
渡航中に欠席する授業に関しては、どの授業も教授などに連絡しました。また、必修の基礎化学実験を休まなければならないことになりましたが、担当教員に相談して補充実験を行っていただきました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

・英語:オンライン英会話を受講して、毎日英語を喋る練習をしていた以外には特に何もしていませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特にありません。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

・国連の設定したSustainable Development Goals(SDGs)に含まれる17のゴールのうちの1つが班ごとに割り当てられており、そのテーマについてDesign Thinkingの手法を用いて解決策を話し合うというプログラムでした。私の班のテーマはQuality Educationで、班の5人でインドの初等教育普及率向上のための方策を話し合いました。発展途上国の教育問題には様々な背景(未発達インフラ、(特に女子)教育に対する偏見など)があり、私の班は全てをカバーしようとして行き詰まってしまいましたが、教育問題に目を向ける良い契機にはなりました。
・プログラムの2日目にフィールドワークが設けられており、各班のテーマに沿った施設などの見学に行くのですが、私の班は、スタートアップ企業を支えている会社と孔子廟を見学しました。前者は中国のスタートアップの雰囲気を感じられて良かったのですが、後者はただの観光という感じがしました。

②学習・研究面でのアドバイス

自分の与えられたテーマに関する知識、特に発展途上国における問題についての知識がもっとあれば良かったと思います。私はワークショップに参加する前、日本の教育問題にのみフォーカスを当てて予習をしていたのですが、アジアの発展途上国の学生が抱えている問題意識を共有できていない感じがしました。

③語学面での苦勞・アドバイス等

インド人やインドネシア人が話すような、強い訛りのある英語を聞き取るのにかなり苦勞しました。彼らの言っていることを理解するのに時間がかかる→その間に他の人が発言していく→どんどん話の流れに取り残される、という悪循環に陥って何も発言できなくなるので、彼らの訛りに慣れておくことをおすすめします。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

清華大学に用意していただいたLiaoning International Hotelに宿泊しました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

北京は大陸性の気候なので日中の気温差が激しいです。着脱しやすい格好をしていきましょう。また、空気が乾燥しているので保湿用のものを持っていくと良いでしょう。交通機関は主に清華大学のバスかタクシーを使っていました。食事も主に清華大学の学食か、スタッフが連れて行ってくれるレストランで済ませました。お金は現金のみ持っていき、その日必要な分だけ財布に入れて持ち歩いていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大気汚染が深刻だと聞いていたのでマスクを持って行きました。滞在していた時期はたまたま幸運なことに空気がきれいだったので、四六時中マスクを着けていたわけではありませんでしたが、少し気になる時にしていました。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃・授業料・宿泊費は清華大学が負担してくれており、交通費・食費は清華大学外でのもののみ自己負担でした。日本から3万円分のRMBを持って行きましたが、最終的に使ったのは1万円強ぐらいでした(お土産含む)。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

受給していません。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

Workshopの前後は時間が少しあるので、朝に早起きして観光に行ったり夜に外食をしに行ったりしていました。いずれの場合も他の参加者+清華大学の学生最低1人で行動するようにしていました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

社会人のメンターの方がWorkshopの各班についてくれました。また、Workshop以外の時間は清華大学の学生が面倒を見てくれており、学食に連れて行ってくれたりしました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

滞在中主に利用したのは、iCenter(Workshopを行う場所)と学食のみでした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

期待とは異なり、Design Thinkingの勉強になったわけではありませんでしたが、このWorkshopに集まっていたアジア各国の優秀な学生達と交流できたことは何より良かったと思います。特に、このAUAに加盟している大学に理工系専門の大学も少なくない(清華大学、香港科技大学、インド工科大学など)ことから、自分と同じように理系に興味を持つ友人を得ることができました。また、大学1年次から中国語を習っていましたが、今回初めて中国本土を訪れ、実際に中国語が使われている様子を目にしたことで、中国語学習への意欲がわきました。

②参加後の予定

大学の勉強に今まで通り真面目に取り組むと同時に、中国語の学習を今まで以上に熱心に行おうと思います。また、理系の国際交流系学生団体(STeLA)に入る予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

AUAに加盟している大学のある国は、東は日本から南はスリランカ、西はアラブ首長国連邦まで様々な地域にわたっています。アジアの学生と交流できる留学プログラムは多くありますが、これほど多様な地域の学生と交流できる場を提供してくれる機会は他にないでしょう。アジアやテクノロジーに興味のある学生さんにとっては、仮に大学を1週間休まなければならなかったとしても参加する価値のあるプログラムだと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2017年 5月 3日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始）	学部2
参加プログラム：	AUA Innovation Workshop	派遣先大学：	清華大学
卒業・修了後の就職（希望）先：			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職（医師・法曹・会計士）
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業（業界： ）	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他（ ）		

派遣先大学の概要

北京に位置する国立大学で、北京大学と並ぶ名門。特に工学系が強い。キャンパスの広さは中国一で、学生は皆自転車移動する。

参加した動機

アジア各国のトップ大学の学生とSDGsについてディスカッションできる素晴らしい機会だと考えたから。また、新しいアイデアを出すことに苦手意識があったのでInnovationを起こす方法論を学びたいと思った。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

募集が始まったのが1か月前くらいだった。応募は決めていたものの、参加書類を書き始めたのは締め切り3日前だった。参加書類には教務課などの捺印が必要なので、その部分だけは計画的に進めることを勧める。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

必要なかった

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

風邪薬、胃腸薬、PM2.5対策のマスクを携帯した。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

付帯海学に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

教務課に行って、必須試験などを逃すことがないか確認した。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

IELTSを半年前くらいに取っていた。今回のように、突然募集がかかる可能性も考慮して早めに英語資格は取得することをお勧めする。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

季節によって大気汚染の度合いは違うものの、健康のためにマスクは必須である。また、他国の学生との交流をより円滑にするために、お菓子などの軽いお土産を持参すると良いと思う。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

私はUrban Regenerationというトピックに割り振られて、5人のチームで北京の大気汚染を改善するためのプロジェクト発案を行った。1日フィールドワークがあり、Dashilarという歴史的建造物を守りつつ街をリノベーションしている地区に行った。メンターの指導のもと、マインドマップ、ストーリーボード、グラフィックファシリテーションなどの手法を使ってアイデアをまとめ上げて最終的には4分程度のパワーポイントを作って発表した。ワークショップのテーマであったDesign Thinkingの手法の有効性はあまり体感できなくて残念だった。一方で、海外の学生はグループでプロジェクトをすることに非常に慣れていて、メンバーの意見を否定することなくうまく取り入れていくファシリテーション能力に感服した。

②学習・研究面でのアドバイス

自分が担当するトピックの基礎知識は持っていきようになると参加しやすい。

③語学面での苦勞・アドバイス等

やはり英語力はまだまだだと思った。テーマに関連する専門用語を英語で言えるように準備しておくことが必要。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

無料でホテルに泊まることができた。非常に設備が良かった。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

PM2.5は風が強いことと、暖房を使う冬でないために深刻ではなかった。タクシーが日本に比べて非常に安いいため頻繁に使用した。とにかく街が広いので、電車に乗るためにもかなり歩かねばならない場合が多かった。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
中国語を話せないため、一人では行動しないように心がけた。また、タクシーに乗るときは女子だけにならないように気をつけた。
④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
娯楽費として2万円弱。
⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）
特になし。
⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
夜間やフライトまでの時間で、友人たちと北京市内観光をした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
Student Ambassadorが各国につき一人割り振られていたため、多くのことを彼らに調整してもらっていた。
②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）
食堂を頻繁に使用した。非常に安価で味も良かった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
何よりも人脈がこのプログラムで得た最大のものだった。UAEやカザフスタンなど今まで交流したことがなかった国の学生や、起業している学生、大統領になろうとしている学生など多くの有能で積極的な学生と知り合えたことが非常に嬉しい。彼らのディスカッション能力や問題分析力、プレゼン力に非常に刺激を受けた。将来ともに仕事ができるよう、私も勉学に励もうと思った。また、中国という全く別のイデオロギーを有する国を訪れたという意味でも良い経験となった。天安門広場など特定のところには共産主義を感じるものの、街中や交流した学生はほとんど自分と変わらず、やはり草の根レベルでの人脈作りが大切だと感じた。
②参加後の予定
3年夏から交換留学に行きたいと考えている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

プログラム期間中は、チャンスを最大限に利用するつもりで、様々な人と話し、できるだけ多くの場所を訪れてみるといいと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

**The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form
(for programs from a week to 3 months)**

Date: 13/05/2017

Faculty/Graduate School at UTokyo:	Faculty of Education	Year at the time of Study Abroad	B3
Program Attended:	AUA Youth Innovation Workshop	Host University:	Tsinghua Univesity
Occupation after graduation (intended):			
<input type="checkbox"/>	1. Research		
<input type="checkbox"/>	2. Specialist (Medical • Judiciary • Accountant)		
<input type="checkbox"/>	3. Civil Service		
<input type="checkbox"/>	4. NPO		
<input type="checkbox"/>	5. Private sector (Type of industry:)		
<input checked="" type="checkbox"/>	6. Entrepreneurship		
<input type="checkbox"/>	7. Others ()		

Outline of the receiving institution overseas
One of the best and richest university in China, having huge campus and nice and great students
Reason why you decided to participate
Firstly, I am interested in design thinking for solving social problem. Secondly, I want to see and touch the social problem with my eyes. Thirdly, it's free.
Preparation for the program
(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)
Nothing
(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)
Nothing
(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)
Nothing
(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)
Insurance decided by the university

(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)
Sending email to teachers about being absent during this workshop
(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)
nothing
(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.
Tissue and wet tissue because there is no toilet paper in the toilet and so many dusts in city.
Information on the academic/research program
(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)
Firstly, we learned design thinking. Then we went to primary school for immigrant children, which was the most impressive experience in this program. It was beyond my imagination. Lastly, we made our idea based on this fieldwork.
(2) Advice on aspects of academic/research work
It is better to get used to discussion and groupwork in English.
(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.
My English communication skill improves so much in this program, so I don't have any problem in language.
Aspects of life
(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)
Decided by Tsinghua University
(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))
It is better to exchange enough money because you can't use credit card in the most places

(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)
Almost Nothing
(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)
Just sightseeing and food cost
(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)
Provided by Tsinghua University for basic cost
(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)
Sightseeing
Environment of the receiving institution
(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)
Enough. Student staff are very kind and nice.
(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)
IT equipment is rather good. However, water supply in the toilet is broken in the university
Looking back over the program
(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad
The significant point for me is that I could see the reality of the social problem (education for poverty) with my eye and that I understood how to communicate casually with oversea students in English. It is needed just to have confidence and make smile. It is almost the same as communication in Japanese.
(2) Your plans having studied abroad
I have more interests in social problem in education, so I will join the related activity.

(3) Any messages or advice for future participants
If you want to see the reality of the social problem with your eyes and want to communicate with intelligent overseas students so closely, you should join. I think it will be your memorable experience in your life.
Miscellaneous
(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas
Nothing
(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.